

# 人の成長に関わる仕事にやりがい



毎月第1土曜日に掲載

## キャリア 人材・組織開発部 三浦 明日香さん

(みうら・あすか)



「から作り上げていく作業が楽しく、成約につなげた時の達成感も大きい」と話す三浦さん

Carriitra(キャリア)は、オシダナ教材「キャリアアトランプ」を使った人材育成、組織活性化、キャリア支援、女性活躍、シニア支援などに関する研修・講習を企画、運営している。人材・組織開発部の三浦明日香さん(51)は「人材教育のような、人の成長に関わる仕事はやりがいも大きい」と目を輝かす。

大学を卒業後、約6年の銀行勤務を経て人材派遣や研修などの人材サービス会社に就職。約4年勤め、研修体系の構築から企画、実施など社員教育に携わった。国家資格のキャリアコンサルタント資格も取得した。

2005年、結婚して1年後に長男を出産。同時期に夫が関東に転勤になり、自身も転職。メーカーの人事部で研修担当として、5年ほど人材育成に携わった。

その後、夫の転勤に合わせてカナダに転居し、専業主婦として過ごした。15年、夫が東海地方に転勤になって帰国。しばらく専業主

## 前職や自身の経験も生かす



心地良い雰囲気に従業員もエネルギーがあるので働きやすい職場だという

ビルディング、コミュニケーションの活性化、就職支援、女性活躍支援、モチベーション向上などの研修で活用できる。そして昨年、三浦さんは法人担当の企画営業を兼任することになった。同社は、若手育成のための研修、女性のキャリアアップの研修、シニア世代の活躍に向けた研修などを企画している。それらは企業さまさまニーズに応じてカスタマイズすることが多い。企業の担当者と密にコミュニケーションを取り、社内研修でどういったことがしたいかを把握しなければ、最適な提案はできない。

「ここで以前、人事担当者として人材育成に携わった経験が生きています。今は社外から提案する立場ですが、社内の研修担当者が抱える課題を理解、共感できるからだ。また、自身が夫の転勤や育児との両立で経験したことも、女性活躍の研修の企画で生かしている。「キャリアアトランプを使った研修で、受講者が前向きになって元気になるのを見ると自分もうれしい」とほほ笑む。

入社当初は、キャリアコンサルタントの資格更新のための講習の運営を担当した。そのうちコロナ禍になり、同社の研修もオンライン化。同社は、社名をキャリアアトランプに変更した。昨年夏からは週休3日制を導入した。三浦さんにも「せつ々かなって」「仕事に対する並々ならぬ熱意をすごいと感じていた」と評する教材。キャリア支援、チーム

入社当初は、キャリアコンサルタントの資格更新のための講習の運営を担当した。そのうちコロナ禍になり、同社の研修もオンライン化。同社は、社名をキャリアアトランプに変更した。昨年夏からは週休3日制を導入した。三浦さんにも「せつ々かなって」「仕事に対する並々ならぬ熱意をすごいと感じていた」と評する教材。キャリア支援、チーム

### ボーイスカウト

ボーイスカウトをやめた後は、これも母の意向でボーイスカウトに入った。小学校5年生から約5年間、あのおちよつと目立つ制服と帽子を身に付け、募金や清掃をはじめとする奉仕活動のほか、キャンプ、山登り、ハイキング、スキーなど、自然に親しんだり、体を鍛えたりといった活動を週1回くらいのペースで行っていた。

元々ボーイスカウトは、100年ほど前にイギリスのパウエル卿が青少年育成のために始めたもので、厳密にいうと小学6年生から中学2年生の3年間のみの世代が対象である。

当然だが、メンバーには運動神経抜群の人たちがそろっていた。体力に自信のない私が山登りに参加した時に

ブラザー工業会長

小池 利和 4



常川君(左)と筆者。60年近い付き合いになる

## 生涯の友人に巡り合う

は、上り坂をう時間も歩いたら動けな私、残り物しか持つて帰ることしかなくなるなど、周りに迷惑ばかりかけて、いつも班のメンバーからひんがいた。キャンプでは、食料・備品など、しゅくをかかっていた。そのボーイスカウトで一緒の班になった。そのボーイスカウトで、以来60年近い付き合いになるのが、をもらいに行くのだが、足が遅かったり、

彼は専任校以外で学校が一緒になつたこととはなく、性格も正対だったが、ウマが合い、家族ぐるみの付き合いが続いている。今でも時々当時のことを思い出しながら懐かしく杯を傾けている。最近、昔の思い出話をするとうい認識が食い違う場合がよくあるが、月日が経ちすぎたせいなのか、どちらが正しいのかはもうわからない。

織維商社・豊島の専務を務めた常川健志君だ。彼はスポーツ万能だった。ボーイスカウトの活動で徹夜のハイキングをした翌朝、ハンドボールの大会に出場して優勝したこともあるほどだ。登山の時など、いつも彼に励まされた。荷物を持ってもらったりといふん助けられた。楽しい思い出ばかりではなかったが、常川君のような友人に巡り合えただけでも有意義だったと思に意識している。